

取組事例 09 応援職員が安心・安全に災害対応業務を行うための取組

1 宿泊・生活環境の確保に向けた被災自治体との調整(福井県)

- ・ 会議室で複数の自治体から派遣された職員が男女問わず雑魚寝していた状況を受け、女性職員の宿泊スペースとして庁舎内の一室を使用できるよう、被災自治体と調整し、提供を受けた。
- ・ 職員の増員に伴い、市庁舎外に、福井県が占有できる活動拠点(隣接して仮設トイレ有)を確保した。女性の宿泊スペースとして熊本市を通じてキャンピングカーを借り受け、その後、福井県の協定先企業と契約し、活動拠点近くにキャンピングカーを設置することで、女性職員の安心・安全が確保され、夜間会議への参加のしやすさにつながった。

2 宿泊拠点の確保(熊本県熊本市)

- ・ 民宿を借り上げて応援職員の宿泊拠点とした。
- ・ 現地にあったトレーラーハウスや、日本 RV 協会との交渉によってキャンピングカーを導入し、宿泊や着替えに利用した。



3 心身の安全確保(三重県いなべ市)

- ・ 発災初期は性犯罪の懸念があることから、防犯ブザーと折り畳み式の着替え用テントを用意し、派遣する職員に配布した。就寝時は、鍵のかかる部屋(物置)を寝床として使用した。
- ・ 派遣後には、心身共にリフレッシュし、体力回復のための特別休暇を導入した。